

信濃町の埋蔵文化財

上ノ原遺跡(7次)ほか 発掘調査報告書

—旧石器時代と縄文時代草創期の遺跡—



1998

長野県信濃町教育委員会

上ノ原遺跡(7次)ほか 発掘調査報告書

—旧石器時代と縄文時代草創期の遺跡—

1998

長野県信濃町教育委員会

目 次

目 次	
例 言	
I 調査の経過	1
1 平成9年度信濃町発掘調査の概要.....	1
2 調査体制.....	1
II 上ノ原遺跡	1
1 発掘の概要と経過.....	1
2 発掘地の地形と地質.....	2
3 遺構・遺物の出土状況.....	2
4 旧石器時代～縄文草創期の石器と遺構.....	2
5 縄文時代草創期の土器.....	4
6 上ノ原遺跡調査の成果.....	4
III 宮ノ腰遺跡	5
1 発掘の概要.....	5
IV 針ノ木遺跡	5
V 吹野原A遺跡	5
1 発掘の概要と経過.....	5
2 発掘地の地形と地質.....	6
3 基本層序.....	6
4 遺構・遺物の出土状況.....	6
5 遺物.....	6
6 まとめ.....	6
文 献	
図 版	
報告書抄録	
英文要旨	

例 言

1. 本書は平成9年度の上ノ原遺跡、吹野原A遺跡、宮ノ腰遺跡など信濃町内における遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、国および県から補助金交付を受けた信濃町教育委員会が、平成9年4月15日から平成10年3月20日にかけて実施した。整理作業は主に12月～3月におこなった。
3. 本書は調査によって確認された遺物とその出土状況を中心に、基礎資料を提示することに重点をおいた。
4. 本書作成に至る分担は、下記のとおりである。
上ノ原（町道予定地）・宮ノ腰遺跡・針ノ木遺跡
 遺物・記録の整理 今井美枝子・万場弘子
 長谷川悦子・横山真理子
石器実測・土器拓本……佐藤ユミ子・内田陽一郎
 中村由克
図版作成・編集補助……佐藤ユミ子

吹野原A遺跡

遺物・記録の整理	藤田桂子・菅谷澄子 北村フクコ・佐藤道子 佐藤美佐江・玉井真生
石器・土器実測	菅谷澄子・佐藤道子 渡辺哲也
図版作成	藤田桂子・佐藤美佐江 渡辺哲也
執筆（V）	中村由克
執筆（V以外）および編集	中村由克
5. 調査によって得られた諸資料は、野尻湖ナウマンゾウ博物館で保管している。出土資料の注記番号は、次のとおりである。	
上ノ原遺跡 97UH	宮ノ腰遺跡 97MY
吹野原A遺跡 97FA	

I 調査の経過

1 9年度信濃町発掘調査の概要（表1、図2）

野尻湖の位置する長野県上水内郡信濃町には、39ヶ所の旧石器時代・縄文時代草創期の遺跡が確認されており、中部地方でも有数の遺跡密集地として近年、特に注目を集めている。1997年10月、この地域に上信越自動車道が通過することになり、1990年以降、信濃町では緊急発掘が多くおこなわれるようになった。

とりわけ、野尻地区と柏原地区の境界にあたる貫ノ木には、信濃町インターが設けられ、長野県埋蔵文化財センターにより大規模な発掘調査がおこなわれた。また、インターから長野側の出口にあたる上ノ原をはじめ町内各所で、取り付け道などの関連事業が実施さ

れ、主に信濃町教育委員会による発掘調査がおこなわれている。

平成9年度、信濃町教育委員会では、高速道路の公共交通事業や民間事業が相次いだため、埋蔵文化財の発掘調査が多く実施された。本年度は、4月当初より2班体制で、4月から12月まで現場調査が実施され、引き続き3月まで整理作業をおこなった。今年度におこなった主な発掘調査は、表1のとおりである。

この内、個人住宅および開発事業の試掘調査である上ノ原遺跡・宮ノ原遺跡・針ノ木遺跡・吹野原A遺跡の調査には、国および県からの補助金交付を受けた。

2 調査体制

上ノ原遺跡、吹野原A遺跡等の発掘調査は、信濃町教育委員会の直営事業として実施し、組織は以下のとおりである。

調査主体者 信濃町教育委員会

教育長 小林一盛

事務局 総務教育課 謙長 北村敦博

係長 北村恭一 担当 池田昭博

〈上ノ原・宮ノ原・針ノ木〉

調査担当者 中村由克

担当職員 池田昭博

調査参加者 麻田紀子、池田か己子、石田和子、大久保孝子、荻原敬藏、落合春人、小日向キヨ子、片山トヨ、金子シズイ、金子房江、木下浩一、木下紹栄、木村キミ子、小林栄子、小林節子、小林正義、駒村幸男、佐藤清子、佐藤ユキ子、佐藤儀信、洪沢ユキ子、高橋是清、高野孝司、竹内功、竹内良子、竹内百枝、竹内みき子、中村昭子、中村浪江、東賀、平塚せつ子、深沢政雄、巻柄

恵子、松岡さとみ、松木由美子、宮川あさ子、山田啓子、吉川栄子

今井美枝子、佐藤ユミ子、長谷川悦子、横山真理子、万場弘美

〈吹野原A遺跡〉

調査担当者 渡辺哲也

調査参加者 荒井時子、池田長昭、石田尋子、小日向キヨ、加納ゆづる、北村栄子、小林ヨシエ、関塚恒、滝野一男、玉井真生、外谷朝生、中村正枝、中村リウ子、藤田桂子、村田達哉、森浩美、若月ケサノ、若月知子、若月三雄

なお、報告書作成にあたって、次の方がたにご指導をいただいた。ここにご芳名を記し、感謝の意を表する次第である（敬称略）。

笠原永隆、Anden David Eliot

II 上ノ原遺跡

1 発掘の概要と経過

上ノ原遺跡は野尻湖南南西方の信濃町柏原の北部の字上ノ原、岡実に所在し、国道18号線にそったなだらかな丘陵の頂部にひろがる遺跡である。北西-南東の長輪方向の長さが約900m、幅250~500mで、面積約330,000m²におよぶ信濃町でも有数の面積の遺跡である。上ノ原遺跡は高速道路のインターと国道に近いため、開発が集中しているので、遺跡全体を県埋蔵センターの遺跡座標系に

準じた200m、40m単位で区画設定し、さらに5mごとにグリッドを設けた。

本遺跡では、これまで7次にわたる発掘調査と個人住宅の調査等が実施されている。主な調査の位置と概要是次のとおりである。

第1次調査（1990）4区FGHKL 農地造成（町開発公社）
縄石器文化

第2次調査（1993）6区C～E、G～I 町道信濃幹線1号線 ナイフ形石器文化（杉久保系石器文化）

第3次調査（1995）4区UV 信濃町消防分署出土品少ない（旧石器時代剥片・縄文時代集石出土）

第4次調査（1995）7区QRV 店舗兼住宅 信濃自動車（スタンド）縄文時代草創期、旧石器時代の尖頭器文化

須藤氏住宅地点（1995）8区B 個人住宅 ナイフ形石器文化（黒色帯文化層）

高速道地点（1994・1995）黒色帯文化層、尖頭器文化

第5次調査（1995～1997）12区QRUVW・14区AB 主要地方道信濃信州新線 ナイフ形石器文化（杉久保系石器文化・瀬戸内系石器文化）、ナイフ形石器文化（上II最下部文化層）

第6次（1997）1区・2区・4区 帝国石油ガスパイプライン ナイフ形石器文化（上II最下部・上II上部）、縄文文化層

第7次（1997）2区 町道大平大久保線の予定地 黒色帯文化層、ナイフ形石器文化（上II最下部・上II上部）縄文草創期

今回の調査地点は、信濃町が町道大平大久保線の予定地として買収した用地である。上ノ原遺跡に隣接する場所であったので、遺跡の有無を調べる試掘調査として9月2日に着手した。試掘は用地の両サイドにそって幅約1mの試掘溝を設定し、一部は拡張した。10月20日までにこの地点が上ノ原遺跡の一部分に属することが判明し、またその遺跡の時代と規模が確定したので、以降の調査は本発掘として試掘を終了した。なお、本発掘は12月1日までおこなったが、未調査範囲が残っているので、次年度以降に継続することになった。

2 発掘地の地形と地質（図1、図3）

発掘地は東西にはしる町道大平大久保線のすぐ南側にあたり、北東約100mには大久保池がある。町道付近で標高702mであり、南側にいくにしたがって標高を増し、最終地点の高速道交差部では、標高705mである。

この付近は上ノ原遺跡が立地する丘陵の北東端の縁辺部にあたり、大久保池を含む低湿地へ変わっていく地形変換点になっている。

高速道交差部付近では、地表下数mに後期更新世の下部野尻湖層Ⅱより下位が水成で堆積しており、その上位をローム層が風成でおおっている。上ノ原遺跡をつくる丘陵の基盤は、約650m南方の主要地方道信濃信州新線地点（県道地点）で池尻川岩崩流堆積物であることが確認されているので、今調査地点まで同一の流下物が達し

ているものと推定される。

発掘地では北側の低地に近づくと標高が減じ、町道付近では上部野尻ローム層Ⅰの黒色帯以下の層準は、やや粘土質で若干、澁水的な環境で堆積した風化火山灰層であると推定される。上位には、下部野尻ローム層Ⅲ～上部野尻ローム層Ⅱなどの風化火山灰層がおおい、さらに完新世の柏原黒色火山灰層がおおっている。

発掘地では、下位より上部野尻ローム層Ⅰの褐色ローム層10cm+、16cmの黒色帯、11cmの上部野尻ローム層Ⅱ最下部（上II最下部）、30cmの上部野尻ローム層Ⅱ上部（上II下部～上部）、11cmの上部野尻ローム層Ⅱ最上部（モヤ）、31cmの柏原黒色火山灰層、20cmの表土などの層位が観察された。

3 遺構・遺物の出土状況（図4、図5、表2、表3）

遺物は全体的に散漫な出土であった。モヤ文化層でIIW-B1・C1付近に縄文草創期の土器集中地点およびII R-C8付近に旧石器時代末～縄文草創期の石器のブロックがあり、IIQ-GH8・II V-GH1付近、II V-D2に上II

最下部文化層のブロックが検出された。

また、町道付近のII R-H5・6、II S-A5・6では黒色帯文化層に配石遺構と石器・剥片のブロックが検出された。

4 旧石器時代～縄文草創期の石器と遺構（図6～図10、表4）

1) 黒色帯の砥石を含む配石遺構（図6）

配石遺構1：II S-A5グリッドに6点の砾と遺物が近接して並んで出土した。西側より砾2点・18の砥石、16の石斧素材が隣接して並び、2点目の北側に19の砥石、16

の北西に15の石斧未成品が構成していた。18は作業面を下側に向け伏せた状態になっていた。

砾石と石斧素材をあつめて伏せた状態に置かれていた配置は、石斧生産の道具と材料を置いて保存していたも

のと推定される。

配石遺構 2：配石遺構 1 の西側で、4.5×1.8m の範囲に 10 点の直徑 12~20cm の礫が疎らに点在している。うち 1 点は 6cm である。礫は安山岩の亜円礫である。この層位には、もともと礫が自然ない場所であり、またやや丸みのある亜円礫であることから、人為的にもたらされたものと思われる。この中の 3 点、北側の列の西から 3 番目の 22、南側の列の西から 3 番目の 21、そして 5 番目の 20 は砾石である。

2) モヤ下部付近の石器集中区（図 7）

II-R-C8 グリッドを中心にして、13 点ほどの石器、剥片が集中して出土した。この石器群に隣接して、やや南よりに縄文時代草創期の土器がまとまって出土していることから、それらと同時期の可能性が考えられる。

3) 黒色帶文化層の石器群

石斧未成品・素材・剥片：15 は蛇紋岩製の石斧未成品である。大きな横長の板状剥片（？）を素材として、周囲から両面に剥離がおこなわれ、石斧の形状に作り上げられている。長軸の両端、すなわち刃部と基部になる部分は、まだ分厚く、剥離が十分におこなわれていない。研磨はおこなわれていない。

16 は蛇紋岩製の石斧素材である。3 面に礫面を残す扁平礫から大形で横長の剥片を剥がした痕がある。石核であり、この後さらに石斧素材の剥片をとるのに十分な厚みのあるものである。石斧の形状にはなっていない。

17 は蛇紋岩製の剥片である。やや厚めの横長剥片で、主剥離面以外は礫面である。16 と同一母岩で接合する。もう 1 点、近くから同じ蛇紋岩製の剥片が出土している。石斧製作に伴う調整剥片と考えられる。

砥石：18 は複雑石安山岩製の扁平な亜円礫の 1 面に研ぎ面ができる砥石である。研ぎ面は深く渦曲しており、石斧加工のためのものである。さらに以前の研ぎ面が 2 面認められる。全長は 18.0cm で、楕円形を呈している。主要な研ぎ面は、幅 6.7cm、長さ 12.4cm、深さ 2.0cm である。かなり使い込まれた砥石である。この研ぎ面を保護するように裏向きで置かれていた。

19 は砂岩製の 4 面に研ぎ面が見られる砥石で、一端は折損している。主要な研ぎ面（実測図正面）は、幅 4.7cm、長さ 8.6cm、深さ 0.4cm である。

20 は複雑石安山岩製で、やや扁平で断面三角形の亜円礫を用いる砥石である。主要な研ぎ面は実測図正面の右端の面である。この研ぎ面は幅 3.9cm、長さ 13.7cm、深さ 0.3cm はかかる。正面中央部はあとから剥落した面である。また、主要な研ぎ面の右端の一部もあとから割れている。中央剥落面の左側に 2 ないし 3 面の古い研ぎ面が認められる。また、側面にも一部磨面ができている。

21 は複雑石安山岩製で厚手の扁平な亜円礫を用いた砥石である。研ぎ面は 1 面で、この面の全体に弱い磨面が

認められるが、使用頻度はそれほど高くないよう、凹んだ研ぎ面にはなっていない。一端の剥離面は加工かどうかは不明である。

22 は複雑石安山岩製でやや扁平な亜円礫を用いた砥石である。研ぎ面は正面中央にできているが、やや弱い。幅約 3.3cm、長さ約 9.3cm である。またこの面の両側にも弱い磨面 2 面が認められる。

剥片：6 は黒曜石製の横長剥片で、側縁に微細な剥離痕が認められる。

4) 旧石器時代の石器

ナイフ形石器：1 は黒曜石製のナイフ形石器である。きわめて厚手で、幅広の石刃を素材として、基部の両側縁に刃済し加工がおこなわれる。背面先端部付近の稜上に刃済し状の加工がおこなわれている。素材剥片の打面は未調整で、大きく残されている。上 II 最下部出土であり、信濃町の清明台遺跡で最初に出土した基部調整のナイフ形石器と共通するものである。今回、これと共に伴する遺物は伴わなかった。

台形（様）石器：2 はチャート製の台形（様）石器である。小ぶりの横長剥片を横に用い、側縁を刃部として、打面側と末端側に腹面と背面から 90 度ほどの急角度の刃済し加工がおこなわれている。

スクレイパー：11 は黒曜石製の石刃を素材とし、側縁に剥離痕がみとめられる石器である。やや弱い加工であるが、サイド・スクレイパーと思われる。

接着資料：14 は珪質凝灰質頁岩製の板状の剥片素材の石核である。幅広の横長剥片をとった後破損していて、5 点が接合している。

5) 旧石器時代末～縄文石器創期の石器群

スクレイパー：4 はラウンド・スクレイパーである。珪質凝灰質頁岩製の幅広の縦長剥片の主剥離面の末端に刃部加工がおこなわれている。側縁にも加工がおこなわれている。反対側の側縁には背面側に調整がおこなわれていて、打面部以外には全辺に加工がおこなわれていねいなつくりの石器である。

13 はラウンド・スクレイパーである。珪質凝灰質頁岩製の縦長剥片を素材とし、主剥離面の打面側に刃部加工がおこなわれている。側縁にも加工がおこなわれている。この側縁の背面側と末端部にも調整がおこなわれている。もう 1 方の側縁は、粗い剥離がおこなわれている。ていねいなつくりの石器である。

5 は無斑晶質安山岩製の幅広剥片の末端部と側縁の背面側にていねいな刃部加工が加えられたラウンド・スクレイパーである。

彫器：7 は縦長剥片の主剥離面のバルブ付近に彫刻刀面をもつ彫器である。末端部にも微細な調整が入れられている。

錐器：9 は幅広剥片の 1 端に、おもに主剥離面側に平坦

な小剥離で尖頭部を作り出した鋸器である。背面側にも小さな調整が加えられている。

10は9と似た外形で、背面側に多くの加工がおこなわれている。

剥片：8と12は、珪質凝灰質頁岩製の剥片で、同一母岩のものである。打面調整はおこなわれない。

3は自然面を残す幅広の剥片である。

5 縄文時代草創期の土器（図11、表5）

隆線文土器：3・4は小さな破片であるが、隆線文土器である。明褐色、薄手の土器で、1は器壁が5.3mmで、隆線の幅が2.3mmである。4は器壁が4.9mmで、隆線の幅が3.0mmである。

爪形文土器：1・2は小さな破片であるが、表面に約6.5×1.8mmの爪状の刺みが認められる爪形文土器である。褐色、薄手の土器で、器壁は1が5.5-6.2mmで、2が5.1mmである。

縄文土器：5・6は無筋の回転縄文による縄文土器である。5は褐色で、器壁は7.5-9.7mmである。6は明褐色で、器壁は7.2mmである。

無文土器：7～22は無文土器である。7～13は明褐色で、7、8、13の器壁が5.7-6.1mmと薄手であるのに対して、他のものは器壁が6.7-7.3mmである。14～18は暗褐色で、器壁が5.8-9.3mmと変化が大きい。19、20は暗褐色で、器壁が4.8-5.8mmと薄手である。21、22は褐色で、器壁が4.8-5.8mmと薄手である。

以上の土器には、裏面に指頭圧痕が認められる。胎土には、火山灰起源の石英を主体として、ほかに白岩片、角閃石、黒雲母などの砂粒を多く含む。文様が認められるものは爪形文、隆線文、縄文の2点のみである。無文のものはいずれかの土器とセットになるものと思われる。これらの土器は、火山灰などの砂粒を胎土に多く含むこと、内面の指頭圧痕による整形技法などの特徴から、縄文時代草創期のものと判断される。

しかし隆線文、爪形文、多縄文系の土器は、通常、同時期に併用されたことはなく、隔年的な前後関係にあると理解されているものである。したがって、これらの草創期土器は、同時期の一括資料ではなく、ある程度時間幅を持った遺物群であると思われる。

23の無文土器は、褐色で、器壁は5.7mmであり、指頭圧痕はなく、胎土や焼成の具合は他のものとは違っている。時期はよくわからない。

6 上ノ原遺跡の成果

黒色帶文化層の砥石を伴う配石遺構は、約3.0万年前のものであり、これまで野尻湖遺跡群で知られていた後期旧石器時代初頭の成果をまた一步前進させるものとなつた。

長野県埋蔵文化財センターによる貫木遺跡、日向林B遺跡の調査で、黒色帶文化層（Vb層）より、多くの砥石が出土している。今回の出土例は、量的な資料増加という意味だけでなく、砥石と石斧素材がまとまって置かれていたという出土状況にその重要性がある。砥石は研ぎ面を下向きにしてあり、使用されたそのままの状態でなく、使った後、次の使用にそなえて1か所にあつめて収納してあったものと考えられる。

野尻湖遺跡群では多くの砥石が黒色帯層準に出土しているが、今回の上ノ原遺跡の出土例によって、ここが局部磨製石斧の製作場遺跡であることが証明された。素材となった蛇紋岩の剥片があまり多くないことから、石斧製作の仕上げ段階の遺跡であったことが考えられる。日

向林B遺跡などの多数の局部磨製石斧の存在については、「ナウマンゾウ狩りのムラ跡」（大竹、1997）という説も出されている。

しかし、野尻湖遺跡群が姫川流域の蛇紋岩産地から約30kmの距離にあり、消費地遺跡への中間的な位置にあたり、ここが石斧の二次的な加工場であった可能性も考えられる。

縄文草創期の土器は、信濃町内では仲町遺跡（隆線文・爪形文）、孤久保遺跡（隆線文）、東裏遺跡（隆線文）、星光山荘B遺跡（隆線文）、琵琶島遺跡（多縄文系土器）などに確認されており、全国的にはきわめて稀な草創期の遺跡が野尻湖周辺にはかなり多いことを明らかにした。今回の資料は量的に限られたものであり、これだけで遺跡の性格等はわからないが、近くに良好な遺跡・遺物が存在するかもしれないという予感を感じさせる遺物である。

III 宮ノ腰遺跡

1 発掘の概要 (図12、表6)

信濃町大字大井字南原の畠地で宅地造成をおこなう計画が出て、この範囲に宮ノ腰遺跡の遺構・遺物が分布するかどうかを確認するために試掘調査をおこなうことになった。調査は、平成9年11月27日から12月5日にかけて実施した。申請地は1,900m²あり、この中に1×2mを基本とする試掘グリッド12か所を設定し、すべて手掘りにより試掘調査をおこなった。

2 発掘地の地形と地質

宮ノ腰の697mの山の北側の扇状地に立地し、墓地に隣接し、標高は約680mである。上部野尻ローム層Ⅰ黒

色帯8cm、上Ⅱ上部20cm、モヤ15cm、柏原黒色火山灰層50cm、表土(耕土)15~25cmが観察された。

3 宮ノ腰遺跡調査の成果

12か所のグリッドから177点の遺物が出土し、また調査地の畠地の表面採集で580点の遺物が採集された。平安時代の土師器450点、黒色土器70点、須恵器187点、中世の珠洲焼1点、中・近世以降の陶器14点などが内訳である。

この結果、調査地には平安時代の遺構・遺物がかなり高い密度で埋蔵される可能性があることが判明した。その後、この場所についての開発計画は中断となった。

IV 針ノ木遺跡 (図13)

信濃町柏原から針ノ木に向かう町道柏原水穴線の改良工事がおこなわれることになり、その予定地内に遺構・遺物が存在するかどうかを確認するために、試掘調査をおこなうことになった。試掘調査は、平成9年11月27日から11月28日にかけて実施した。予定地は450m²あり、

この中に試掘グリッド6か所を設定し、すべて手掘りにより試掘調査をおこなった。その結果、出土品はなく、針ノ木遺跡が今回の調査地まで広がらないことが確認された。

V 吹野原A遺跡 (図14~図19)

1 発掘の概要と経過

吹野原A遺跡は信濃町古間の吹野地区に所在し、北側へ下がるながらかな斜面上に位置している。ここに広域農道の建設が計画されたことにより、遺跡の状況を確認するため、平成7年11月に試掘調査を実施した。その結果、後期旧石器時代の遺物が広く分布していることが判明し、平成8、9年度の2ヶ年にわたり開発箇所全体にわたる発掘調査を実施した。

今回の調査は、上記の調査地に接近した場所で(有)原山建材が客土用の土取りを計画し、当該地の遺跡の状況について照会を受けたために実施した。当該地は上記の調査地よりも、約130m西に離れているが、同一の地形面にあることから当該地まで遺跡が広がっていることが予想された。しかし、現在山林になっているために遺跡の状況が不明であったため、遺跡の広がりを確認するための試掘調査を実施した。

調査は11月10日に着手して11月21日に終了した。調査は開発予定地2000m²中にはば等間隔で1.5×1.5mのトレ

ンチを20箇所設定した。トレーンにはTES-1からTES-20の記号をついた。なお、TES-5は遺構が確認されたために拡張した。

2 発掘地の地形と地質

発掘地は野尻湖からおよそ2km南にある鍋山の北へのびる尾根上に位置する。尾根の先端は鳥居川へ接しており、遺跡は川からおよそ200m南で北側へ下りる標高659m~661mの緩斜面上に位置する。後期旧石器時代の石斧が大量に出土した日向林B遺跡は北東方向へ1.2kmにある。

3 基本層序

調査地の地質層序は図17のとおりで、野尻湖周辺の風成の地質層序と同様である。層序と文化層については野

尻湖人類考古グループによる詳しい記述があるので参照されたい(野尻湖人考古グループ、1994)。野尻湖周辺の層序にしたがえばⅤ層中にATが含まれる。遺物はⅡ層からⅣ層まで出土していることから、遺跡がAT以下まで及んでいることがわかる。

4 遺構・遺物の出土状況

遺構・遺物が確認されたのは図15で示したように7ヶ所である。遺構はTES-5とTES-17の2ヶ所で土坑が検出された。TES-5の土坑の形態は細長く、上場の長軸の長さは180cmである。深さは遺構の検出面から100cm、現地表面からは140cmである。下場は長軸の長さが128cm、幅は4cmである。この形態は今村啓爾1983の分類でE型にあたり、縄文時代の陥し穴と考えられる。遺物が伴っていないため、詳しい時期について不明である。TES-17では土坑と思われる遺構を確認したが、試掘調査であることから発掘せずに埋め戻した。遺構は長椭円形で、大きさは長軸の長さが54cm、中央部の幅が44cmである。これも縄文時代の陥し穴の可能性がある。遺物は6ヶ所で出土した。いずれのトレンチも遺物数は少なく、同じトレンチ内であっても異なる層位から出土しているものが多いことから、遺物の集中する層準はどちらえられなかった。また、小片のため文様が不明であるが、TES-14のⅡ層から縄文土器片が出土している。

5 遺 物

遺物は層位ごとに示した。1はⅡ層から出土した珪質凝灰岩製の綫長剥片で、節理面での折れにより打面部が欠損している。背面には連続した綫長剥片の剥離がみられる事から、本来の包含層よりも後に上位の地層に入った旧石器時代の遺物の可能性がある。2はⅣ層から出土した無斑晶質安山岩製の厚い剥片で、折れにより下半分が欠損している。打面部に数回の剥離が認められる。3~6はⅤ層から出土した。この層準は野尻湖周辺の旧石器時代遺跡で最も多く遺跡が確認されており、この層位の文化層は上Ⅱ上部文化層と呼ばれている(野尻湖人

類考古グループ1994)。3は玉髓製の剥片であるが、下辺に直線的な刃こぼれ状の微細剥離痕が見られる。4は黒曜石製の石刃である。背面の剥離面の方向はすべて腹面と同方向で打面側からである。5は黒曜石製の剥片で、下半分を欠損している。打面から左側面にかけて、自然面が残る。6はチャート製の横長の剥片である。7~9はⅣ層から出土した。7は黒曜石製の剥片で、打面側と末端側がともに折れよって欠損している。9は玉髓製の石核である。剥片素材で、一枚の大きな剥離で平坦な打面を作り出し、連続して綫長剥片を剥離している。10は無斑晶質安山岩製の小形の剥片で打面側と末端側が折れにより欠損している。

6 ま と め

この試掘調査により、吹野原A遺跡が今回の調査地までに広がっていることが確認できた。遺跡の時代は旧石器時代と縄文時代である。旧石器時代ではⅣ層の(上Ⅱ上部文化層)とⅤ層(上Ⅱ最下部文化層)で複数の遺物が確認できた。縄文時代の遺物は土器片1点しかなく、陥し穴が検出されたことから、集落から離れた狩場の可能性が大きい。周囲には同様の陥し穴が複数あることが考えられる。

以上のように今回の開発予定地内では遺跡の広がりを確認した。よって、開発にあたっては遺跡の保護措置が必要と判断される。

文献

- 今村啓爾 1983 陥穴。縄文文化の研究、2. 148-160
大竹憲昭 1997 野尻湖畔のビッグゲーム・ハンター。
岡村編「ここまでわかった日本の先史時代」角川書店、
100-105.
神林忠克・谷和隆・大竹憲昭 1997 野尻湖周辺の先土
器時代遺跡について、高速道関連調査の遺物整理中間
報告、第9回長野県旧石器文化研究交流会発表要旨、
59-71.
野尻湖人類考古グループ1994 野尻湖遺跡群における文
化層と旧石器文化。野尻湖博物館研究報告、2. 1-16

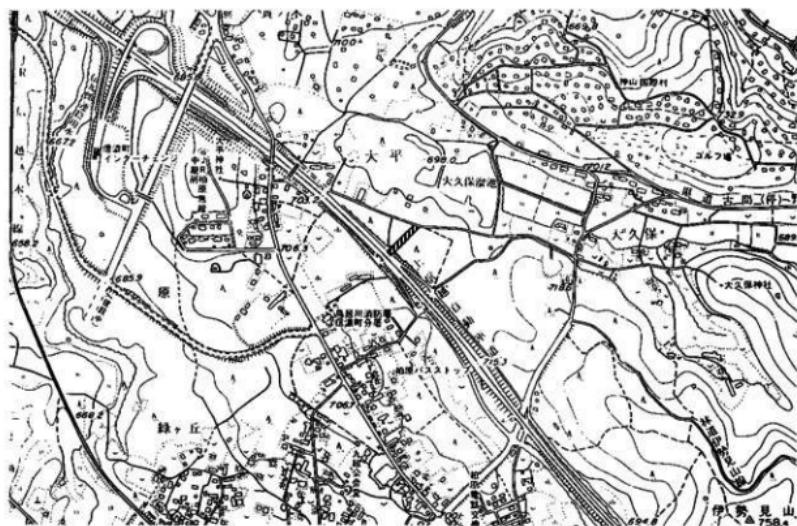


図1 上ノ原遺跡（第7次）調査位置図

表1 平成9年度 信濃町内の遺跡の発掘調査一覧

No	遺跡名	原因	遺跡の時代	面積	調査期間	出土点数	備考
1	上ノ原 (7次)	試掘調査 町道 大平久保森	旧石器・縄文	1,300m ²	9/2~12/1	527点	復いた状態の砾石(黒色帯、約3万年前)など。試掘期間は10/20まで。 発足発掘は10/21~12/1。
2	吹野原A (試掘)	土取り	旧石器・縄文	45m ²	11/10~11/21	14点	例片・石核(旧石器) 落とし穴(縄文)
3	針ノ木 (試掘)	町道 柏原木穴崎	縄文・平安	15m ² (450m ²)	11/27~11/28	0点	遺跡の中心からはずれる
4	官ノ腰 (試掘)	宅地造成	縄文・平安 中世 (1900m ²)	25m ²	11/27~12/5	約150点	土師器、須恵器、黒色土器(平安) 珠洲焼、古窯戸(中世)
5	立が谷	農業 試掘	田石器	32m ²	8/6~8/11	0点	施設確認
6	上ノ原 (5次)	県道信儀 信州新幹線	旧石器・縄文	1,700m ²	4/8~6/20	774点	尖頭器、スケレイバー (旧石器時代後ごろ、約1.3万年前)
7	星光山荘	帝国石油 パイプライン	縄文・中世	270m ²	4/14~4/17	3点	遺跡の中心からはずれる。 (中世土器2点が出土)
8	貫ノ木	帝国石油 パイプライン	旧石器	520m ²	4/21~6/25	683点	石核、例片 (上 II 盆部、約2.6万年前)
9	上ノ原 (6次)	帝国石油 パイプライン	旧石器	7 2 0 m ²	6/21~9/2	595点	局部磨製石器 總石器群(1.4万年前)
10	貫ノ木 (根岸)	国道バイパス 開通事業	旧石器・縄文	200m ²	6/30~8/26	623点	石核、例片 (上 II 盆部、約2.6万年前)
11	照月台	民間店舗開発 (ローソン)	旧石器	170m ²	11/7~11/24	636点	ナイフ形石器と小形の石器 (上 II 部、2.3万年前)
12	照月台 (試掘)	民間造成事業	旧石器	50m ² (700m ²)	11/25~12/5	121点	ナイフ形石器と小形の石器 (上 II 下部、2.3万年前)
13	吹野原A	広域農道	旧石器・縄文	2,600m ²	4/10~11/21	1,047点	大形の石核、砾石 (旧石器時代、3万年前)
14	裏の山	パイプライン	旧石器	約115m ²	5/6~6/27	21点	例片など
15	東裏	パイプライン	旧石器・縄文	約44m ²	5/19~6/5	32点	例片、石核(旧石器時代) 縄文早期、前期の土器
16	東裏	町道 柏原上町線	旧石器 近世現代	約460m ²	7/4~11/6	2,430点	杉久保系、瀬戸内系の尖頭器 石器群出(1.5万年前)
17	役屋敷	一茶臼田 駐車場	平安 近世現代	約460m ²	8/29~11/7	748点	平安時代の堅式六柱窟1軒軒出

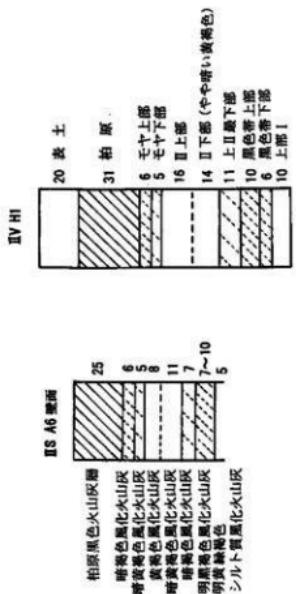


図3 上ノ原遺跡(第7次)の地質
II 上部 (ややあざやか黄褐色)

平成9年度(1997)発掘の遺跡
(旧石器時代の遺跡)

- 1.立ヶ森 2.延島島 3.坂ヶ崎 4.杉久保 5.川久保 6.小丸山 7.向田 8.潤田 9.神台 10.神山北 11.神山北 12.鶴久保 13.伊勢 14.神山C 15.神山C 16.鹿内台 17.貞ノ木 18.西田A 19.西田B 20.鶴久保 21.大久保 22.上ノ原 23.鶴ヶ丘 24.小丸山公園 25.東屋 26.伊勢見山 27.嵩の山 28.鈴ノ木 29.大平B 30.大平A 31.由井林 32.七ツ原 33.鶴原 34.一里塚 35.鶴原 36.潤木原 37.潤原A 38.潤原B 39.丸谷地 40.大道下 41.鳥光山莊
- (1997年の発掘)

図2 平成9年度信濃町内遺跡の開発位置図



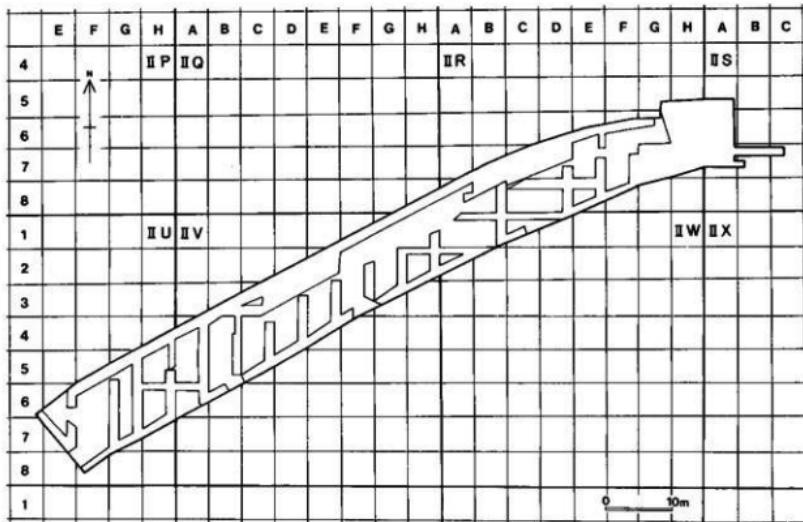


図4 上ノ原遺跡（第7次）のグリッド設定図

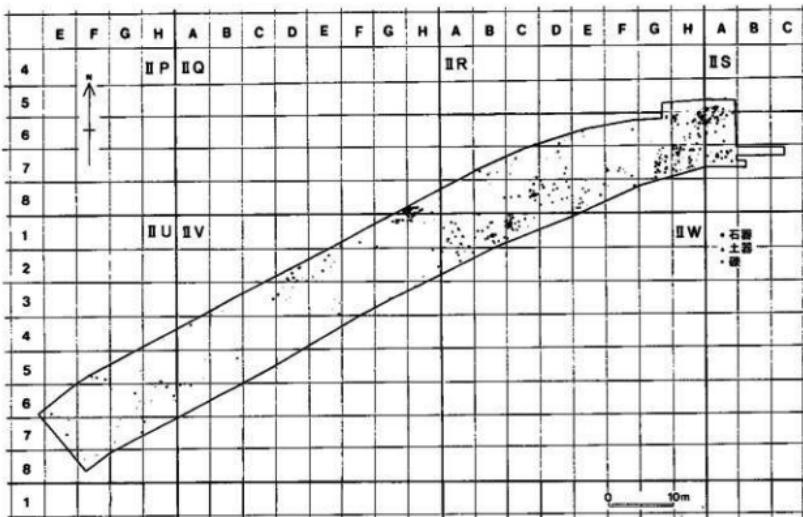


図5 遺物分布図（全点プロット）

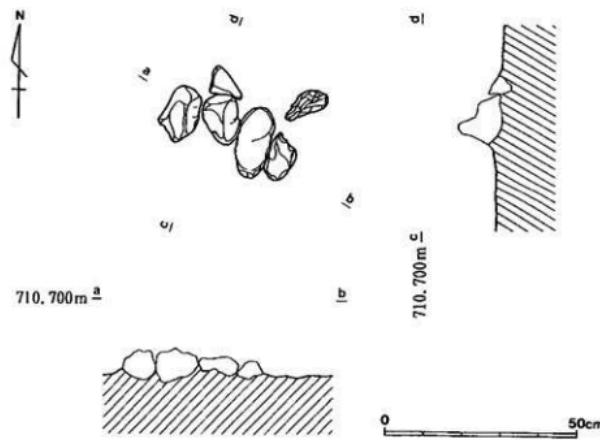
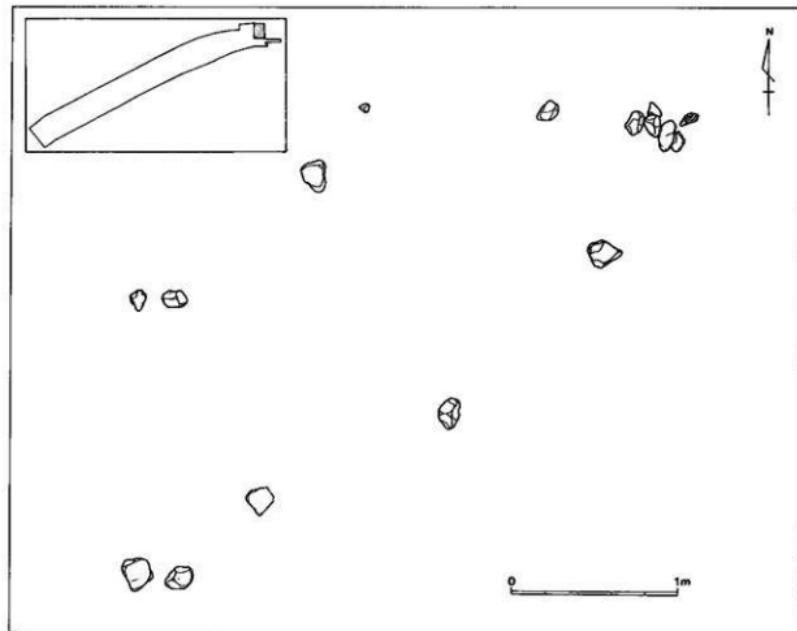


図6 旧石器時代の配石遺構

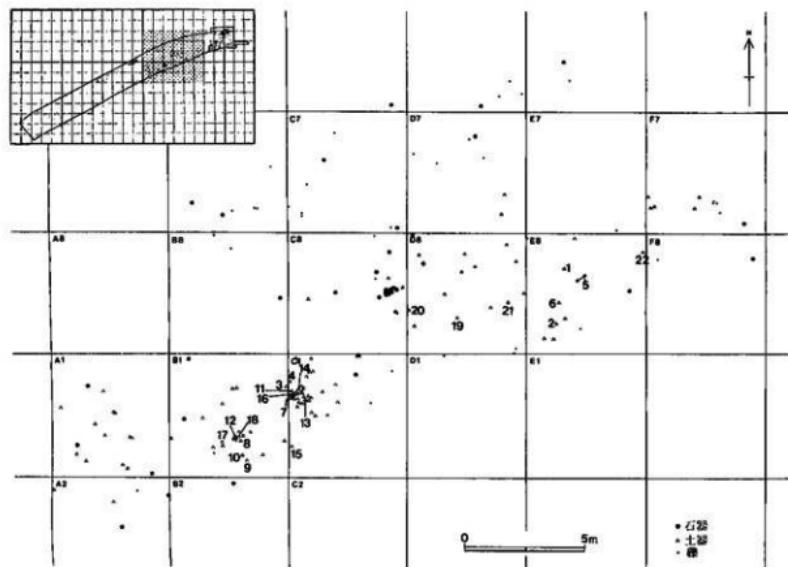


図7 遺物分布図 モヤ下部付近（旧石器時代末～縄文時代草創期）

表2 上ノ原遺跡（第7次）のグリッド別出土遺物点数

グリッド	石器	土器	織	その他	合計	グリッド	石器	土器	織	その他	合計	
HQ G8	5		1		6	HU F7			1		1	
H8	14				14					4	4	
BR B7	2		4		6		G5			3	3	
B8	1		2		3		G6	2		6	8	
C6	1				1		G7	1		8	9	
C7	2		6		8		H4			1	1	
C8	9	10	2		21		H5		2		2	
D6	1		3		4		H6	1	2	9	12	
D7	1	2	4		7		H7		1		1	
D8	2	13	3		18	HV A4	1				1	
E6	1		1		2		A5			2	2	
E7			1		1		A6	2		1	3	
E8	1	10	2		13		B3			2	2	
F6	1				1		B4			1	1	
F7	1	5	4		10		B5		1		1	
F8	1		1		2		C3	1			1	
G6	2	1			3		D2	9		4	13	
G7	20	1	14		35		D3	1	7		8	
H5			3		3		E1	1			1	
H6	21	11	24		56		E2	3		6	9	
H7	25		17	1	43		E3	1		3	4	
HS A5	15		5		20		F1	1			1	
A6	20	2	11	1	34		G1	6		4	10	
A7	13		3		16		G3	1			1	
B5	11	1	8		20		H1	7		2	9	
B6	16	磁器	1	5	23		H2	2		2	4	
C5	6		7		13		H3	1			1	
C6	16		10		26	HW A1	3	12			15	
C7	2		1		3		A2	2	2	1	5	
D5	2		1		3		B1	2	23	1	26	
D6	2		5	1	8		B2	1			1	
E6	1				1		C1	2	35	2	39	
E7	1		1		2		D1			1	1	
F5	2	土師器	1	1	4		計	267	137	222	4	630

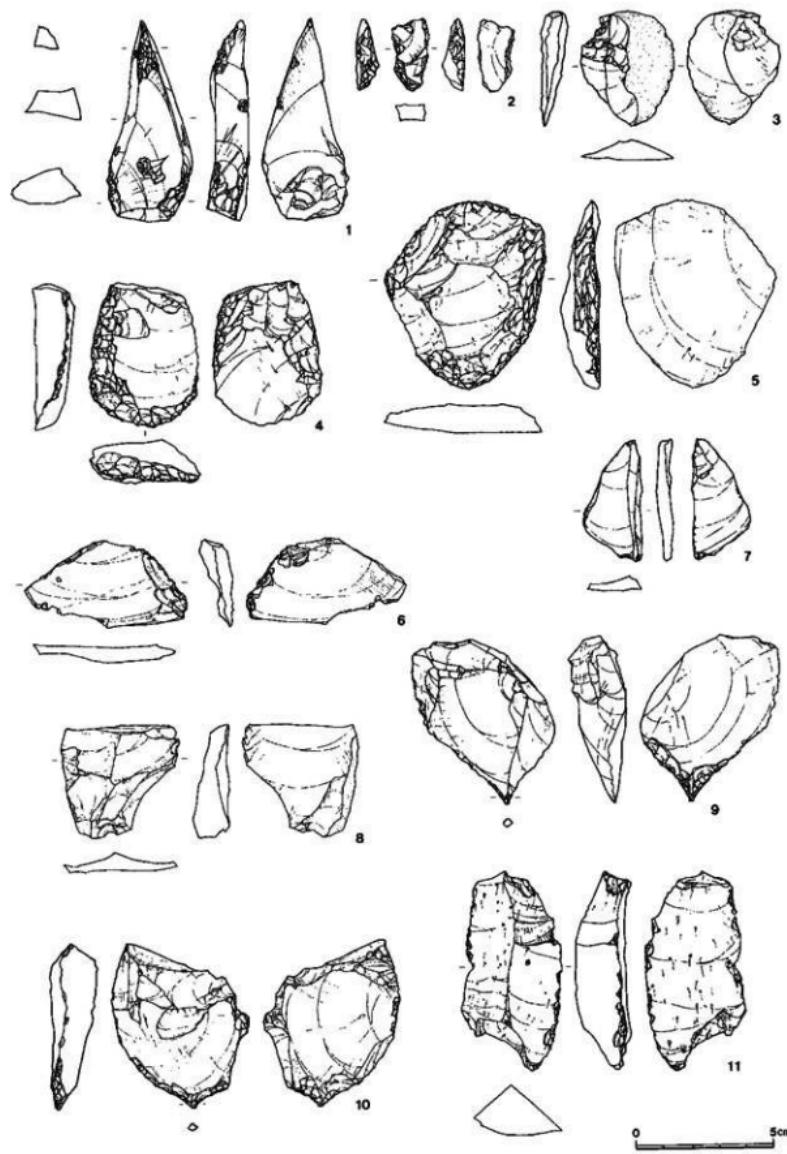


図8 上ノ原遺跡（第7次）出土の石器（1）

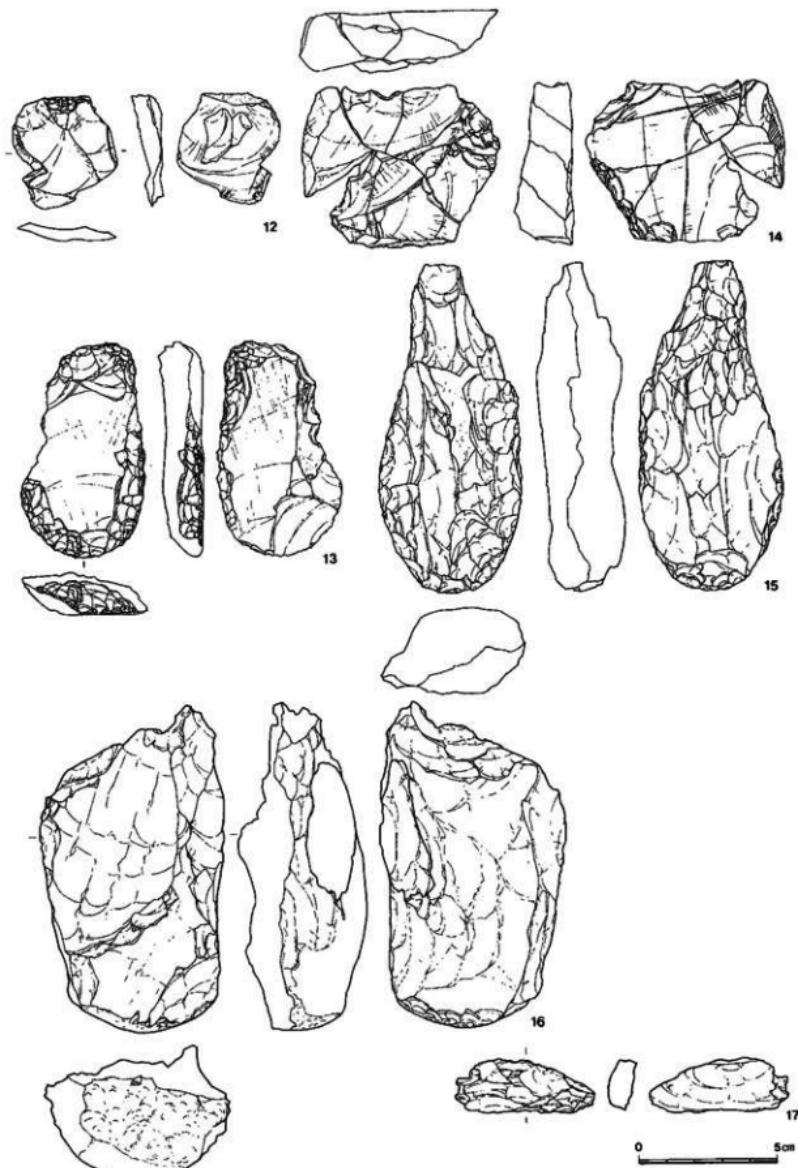


図9 上ノ原遺跡（第7次）出土の石器（2）

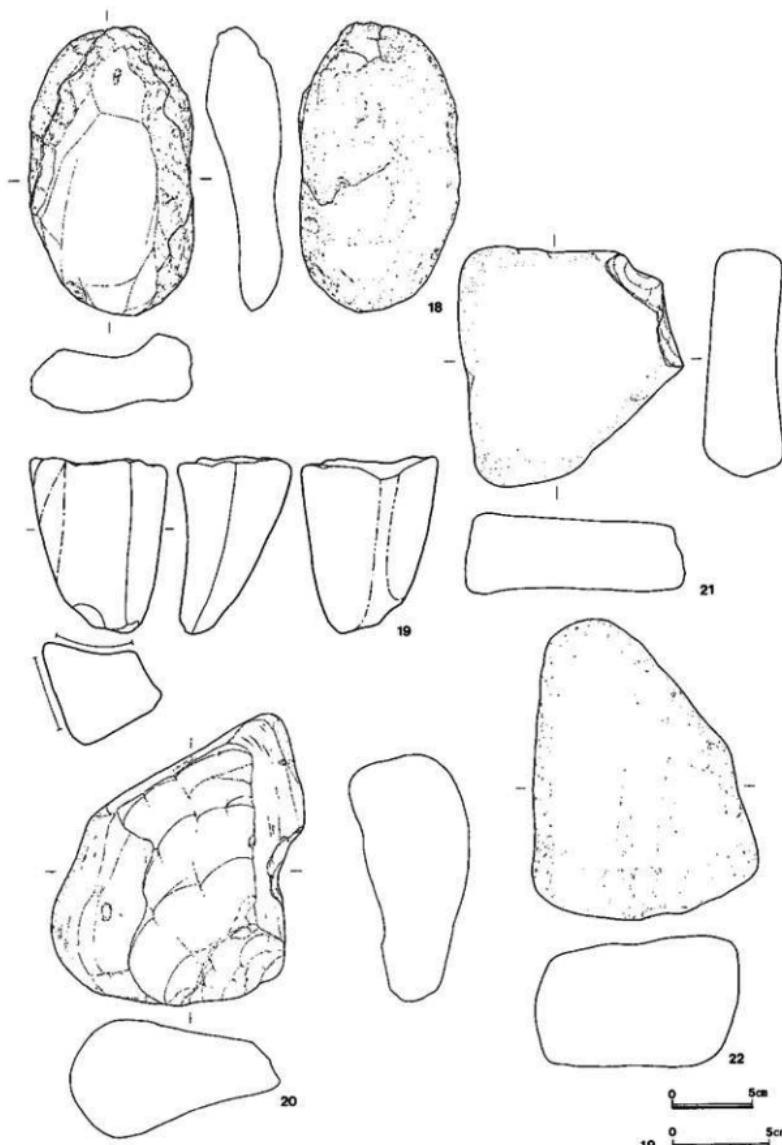


図10 上ノ原遺跡（第7次）出土の石器（3）

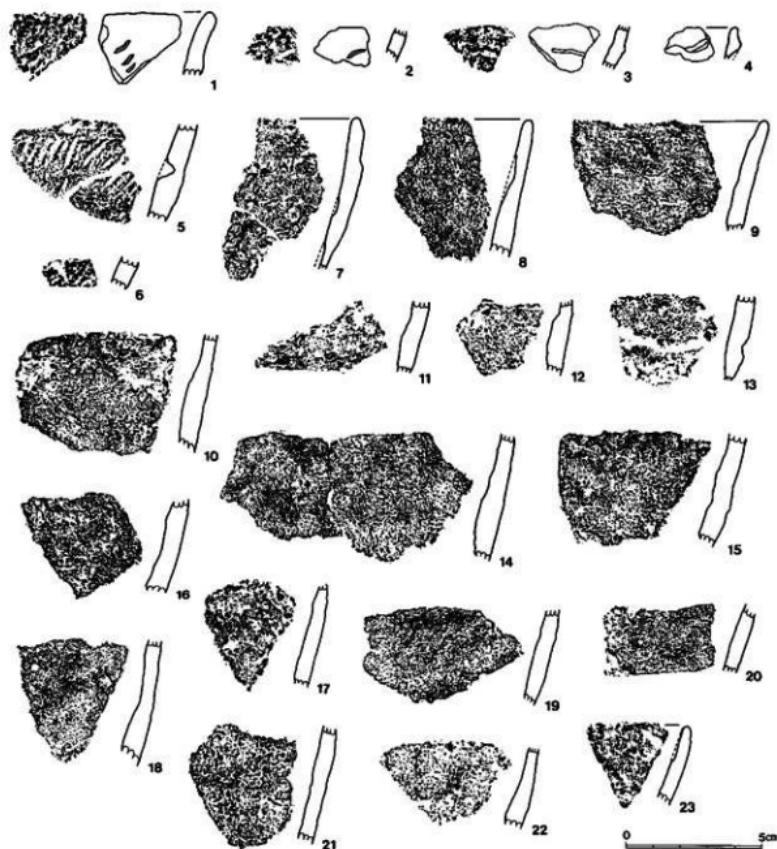


図11 上ノ原遺跡（第7次）の出土遺物

表3 上ノ原遺跡(第7次)の出土遺物

石器	267
骨器	222
土器	137
その他（その他）	4
合計	630

表4 上ノ原遺跡（第7次）出土の石器一覧

No	名称	遺物番号	地層	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
1	ナイフ形石器	97UH(7)ⅡVC3-1	上Ⅱ最下部	黒曜石	7.2	3.2	1.2	28.2	
2	台形(様)石器	97UH(7)ⅡWH2-2	上Ⅱ中部	チャート	2.5	1.3	0.7	2.5	
3	剥片	97UH(7)ⅡRC8-18	上Ⅱ上部上面	珪質凝灰質頁岩	4.2	3.4	0.9	9.7	
4	ラウンド・スクレイパー	97UH(7)ⅡRC8-15	上Ⅱ上部上面	珪質凝灰岩	5.0	3.9	1.5	29.5	
5	ラウンド・スクレイバー	97UH(7)ⅡUE7-2	モヤ下部～上Ⅱ上部	鞍山岩	6.7	6.0	1.1	45.1	
6	横長剥片	97UH(7)ⅡVE2-2	黒色帶上部	無斑晶質玄岩	3.4	5.9	0.7	10.8	微細剥離痕
7	貯器	97UH(7)ⅡRH6-4	モヤ下部	赤色チャート	4.4	2.2	0.5	4.0	
8	剥片	97UH(7)ⅡRC8-17	上Ⅱ上部上面	珪質凝灰質頁岩	4.1	4.3	1.1	15.7	
9	罐器	97UH(7)ⅡRC8-10	モヤ下部	珪質凝灰岩	6.1	4.9	1.9	39.5	
10	罐器	97UH(7)ⅡRC8-9	モヤ下部	珪質凝灰岩	6.1	5.0	1.6	40.9	
11	サイド・スクレイパー	97UH(7)ⅡVE2-1	上Ⅱ中部	黒曜石	7.3	3.6	1.8	37.8	
12	剥片	97UH(7)ⅡRC8-16	上Ⅱ上部上面	珪質凝灰質頁岩	4.1	3.9	0.9	10.0	
13	ラウンド・スクレイバー	97UH(7)ⅡRC8-19	上Ⅱ上部上面	珪質凝灰質頁岩	7.9	4.6	1.4	51.8	
14	石核	97UH(7)SA6-7 97UH(7)RH6-8 97UH(7)RH6-14 97UH(7)RH6-33 97UH(7)RH6-35	モヤ上部 モヤ上部 モヤ下部 黒色帶上面 黒色帶上部	珪質凝灰質頁岩	5.8	7.0	1.9	84.8	
15	石斧未成品	97UH(7)SA5-18	黒色帶下部	蛇紋岩	11.8	5.0	3.1		
16	石斧素材	97UH(7)SA5-17	黒色帶下部	蛇紋岩	11.9	6.8	4.3		No16と17接合
17	剥片	97UH(7)SA5-10	黒色帶下部	蛇紋岩	1.9	5.0	1.0	11.9	No16と17接合
18	砾石	97UH(7)ⅡSA5-16	黒色帶下部	複疊石安山岩	18.0	10.2	4.8		
19	砾石	97UH(7)ⅡSA5-14	黒色帶下部	砂岩	8.8	7.0	5.4	310.0	
20	砾石	97UH(7)ⅡSA6-11	黒色帶上部	複疊石安山岩	18.8	14.8	8.0		
21	砾石	97UH(7)ⅡRH6-31	黒色帶上～中部	複疊石安山岩	14.2	14.8	5.3		
22	砾石	97UH(7)ⅡRH5-2	黒色帶下部	複疊石安山岩	18.5	13.7	8.3		

表5 上ノ原遺跡（第7次）出土の土器一覧

No	時期	文様	文様要素	縁種	遺物番号	備考
1	草創期	爪形文	—	—	97UH(7)RE8-3	砂粒 有 qt 有 bt ho
2	草創期	爪形文	—	—	97UH(7)RE8-10	砂粒 有 qt 有 bt
3	草創期	陸繩文	—	—	97UH(7)WB1-1	砂粒 やや多 qt 有 bt
4	草創期	陸繩文	—	—	97UH(7)WC1-6	砂粒 やや多 qt 有 bt
5	草創期	繩文	無筋	—	97UH(7)RE8-4, 5	砂粒 多 qt bt
6	草創期	繩文	無筋	—	97UH(7)RE8-8	砂粒 やや多 qt 有 bt
7	草創期	無文	—	—	97UH(7)WB1-2	口縁 砂粒 やや多 qt 有 bt
8	草創期	無文	—	—	97UH(7)WC1-31	qt 有 bt
9	草創期	無文	—	—	97UH(7)WB1-7	口縁 qt 有 bt
10	草創期	無文	—	—	97UH(7)WB1-5	口縁 qt 有 bt
11	草創期	無文	—	—	97UH(7)WB1-6	qt 有 bt
12	草創期	無文	—	—	97UH(7)WC1-9	qt 有 bt
13	草創期	無文	—	—	97UH(7)WB1-9	qt 有 bt
14	草創期	無文	—	—	97UH(7)WC1-17	qt 有 bt
15	草創期	無文	—	—	97UH(7)WC1-8, 32	砂粒 やや多 qt 有 bt
16	草創期	無文	—	—	97UH(7)WC1-22	qt 有 bt
17	草創期	無文	—	—	97UH(7)WC1-10	qt 有 bt
18	草創期	無文	—	—	97UH(7)WB1-13	qt 有 bt
19	草創期	無文	—	—	97UH(7)WB1-24	qt 有 bt
20	草創期	無文	—	—	97UH(7)RD8-15	No19, 20は同一個体？砂粒 やや多 qt 有 bt
21	草創期	無文	—	—	97UH(7)RD8-13	砂粒 やや多 qt 有 bt
22	草創期	無文	—	—	97UH(7)RD8-7	砂粒 やや多 qt 有 bt
23	草創期？	無文	—	—	97UH(7)VBS-1	口縁 砂粒 有白, 赤, qt

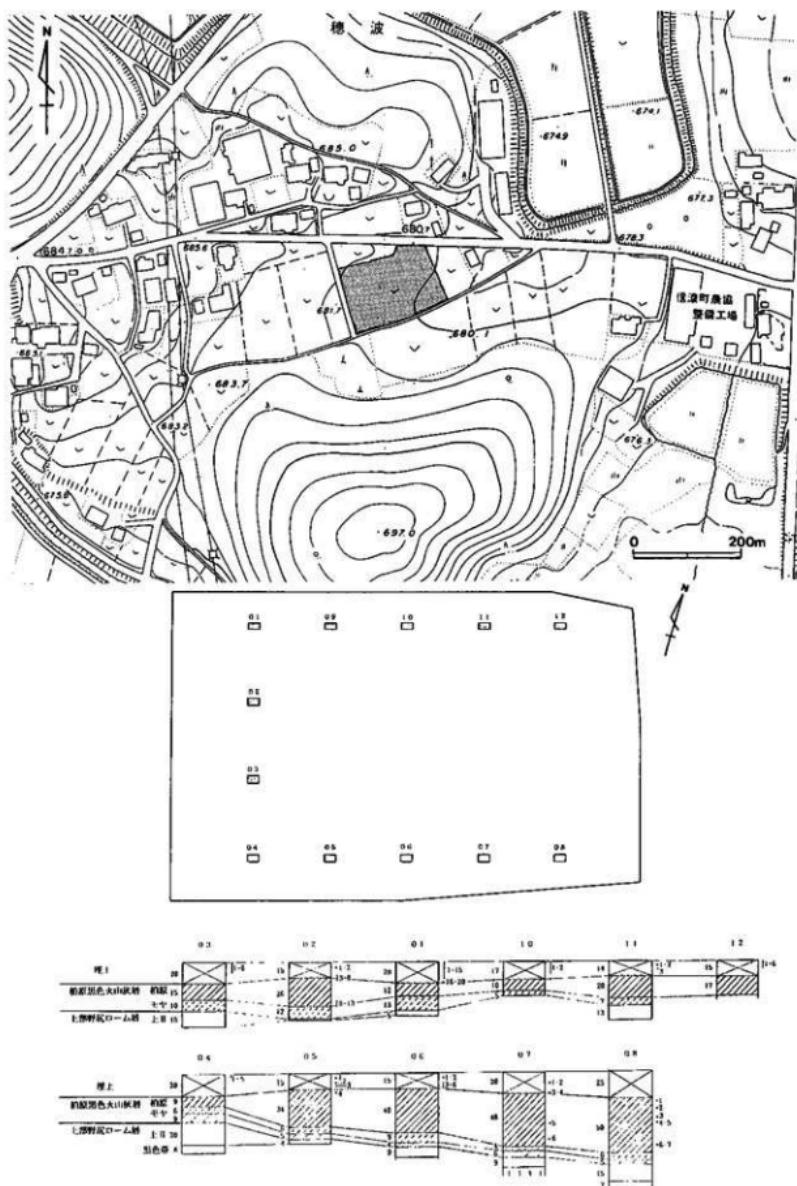


図12 宮の腰遺跡の位置・試掘グリッド・地層

表6 宮の腰遺跡のグリッド別出土遺物点数

グリッド	土器類	黑色土器	漆器類	陶磁器	器など	主なもの	合計
1	21	3	4		2		30
2	9	3	6	1	1		20
3	7	4	6		3		20
4	2		1		3		6
5	3		1		1		5
6	5	1	1	1	3		11
7	10		4	1	13	天目茶碗	28
8	8				1		9
9	3		1				4
10	14		7		4		25
11	2				3		5
12	10		2		2		14
試掘計	94	11	33	4	36		177
表面調査	356	59	154	11		底盤瓶	580
合計	450	70	187	15	35		757

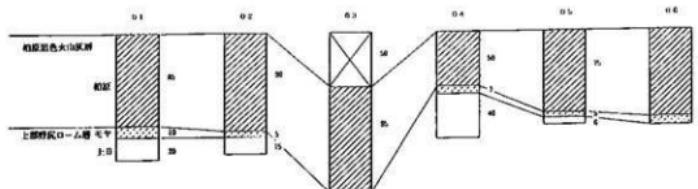


図13 鈴ノ木遺跡の位置・地層



図14 吹野原A遺跡試掘調査の範囲

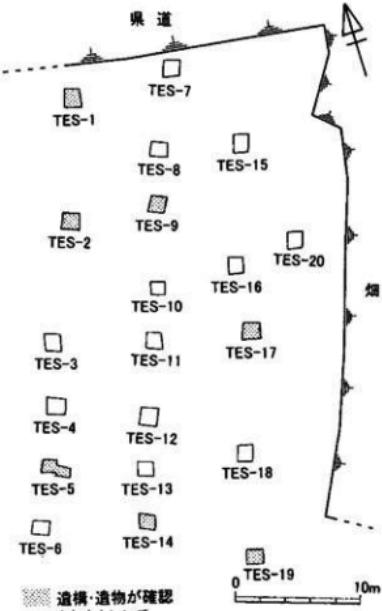


図15 吹野原A遺跡の試掘トレンチの位置

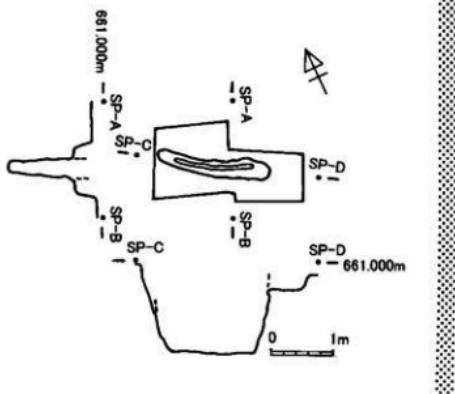


図16 吹野原A遺跡TES-5から検出された陥れ穴

I	:表土
II	:黒褐色土(柏原黒色火山灰層)
III	:暗褐色土(モヤ上部)
IV	:暗褐色土(モヤ下部)
V	:黄褐色土(上Ⅱ上部)
VI	:黄褐色土(上Ⅱ下部)
VII	:暗褐色土(上Ⅱ最下部)
VIII	:暗褐色土(黒色帶)

図17 吹野原A遺跡の基本層序

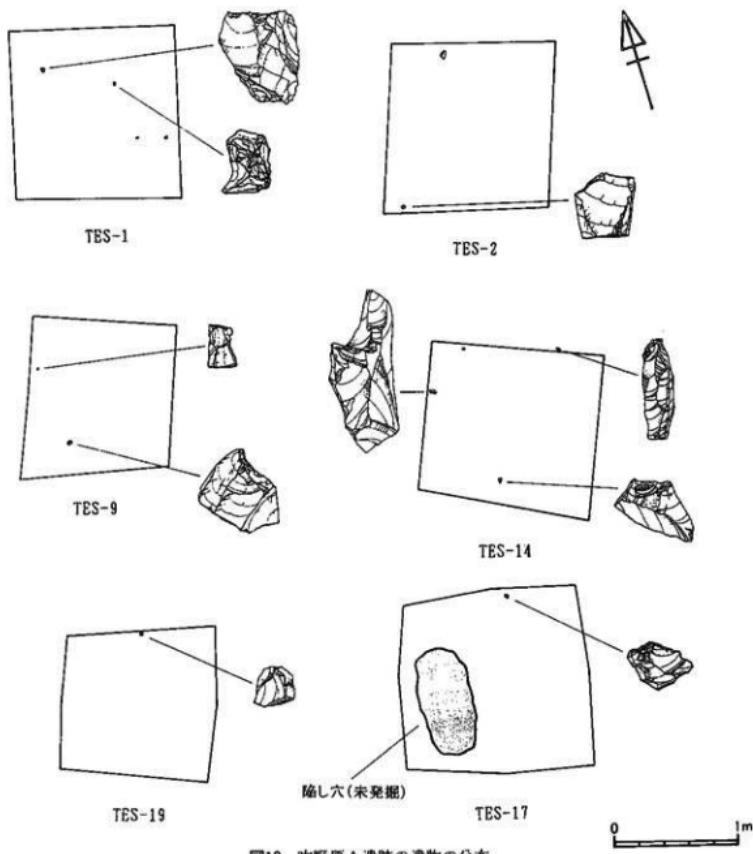


図18 吹野原A遺跡の遺物の分布

表7 吹野原A遺跡出土の主な石器一覧

No.	遺物No.	遺物名	石材	出土層位
1	TES-14-1	剥片	珪質頁岩	II層
2	TES-9-2	剥片	無斑晶質安山岩	IV層
3	TES-1-2	微細剝離痕のある剥片	玉髓	V層
4	TES-14-3	石刀	黒曜石	V層
5	TES-19-1	剥片	黒曜石	V層
6	TES-14-4	剥片	チャート	V層
7	TES-17-1	剥片	黒曜石	VII層
8	TES-2-2	剥片	無斑晶質安山岩	VII層
9	TES-1-1	石核	玉髓	VII層
10	TES-9-1	剥片	無斑晶質安山岩	VII層

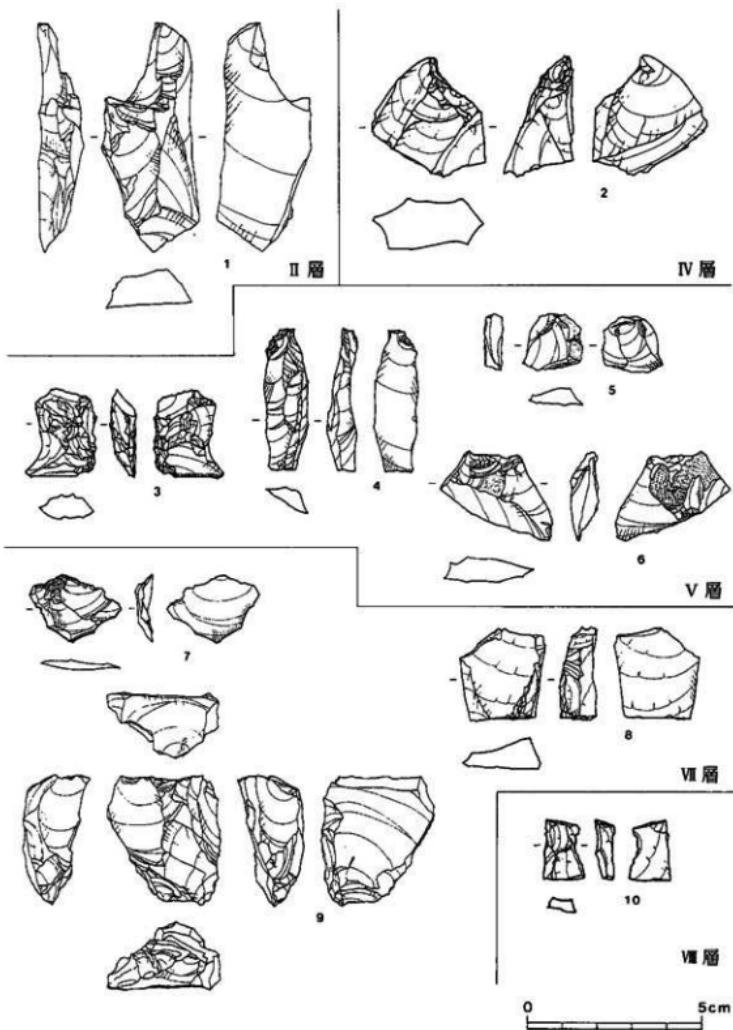


図19 吹野原A遺跡出土の主な石器

写真図版1：上ノ原遺跡



1 上ノ原遺跡の発掘（東側より）



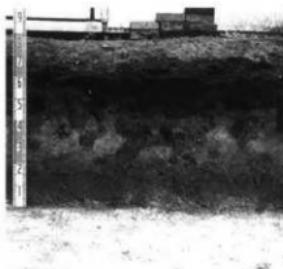
2 遺物の出土状況



3 試掘調査



4 発掘風景



5 上ノ原遺跡の地層

写真図版2：上ノ原遺跡



1 配石遺構



2 配石遺構の発掘



3 配石遺構の発掘



4 配石遺構（東側より）



5 配石遺構（南側より）

写真図版 3：上ノ原遺跡



1 縄文草創期土器の出土状況



2 縄文草創期土器の出土状況



3 縄文草創期土器の出土状況

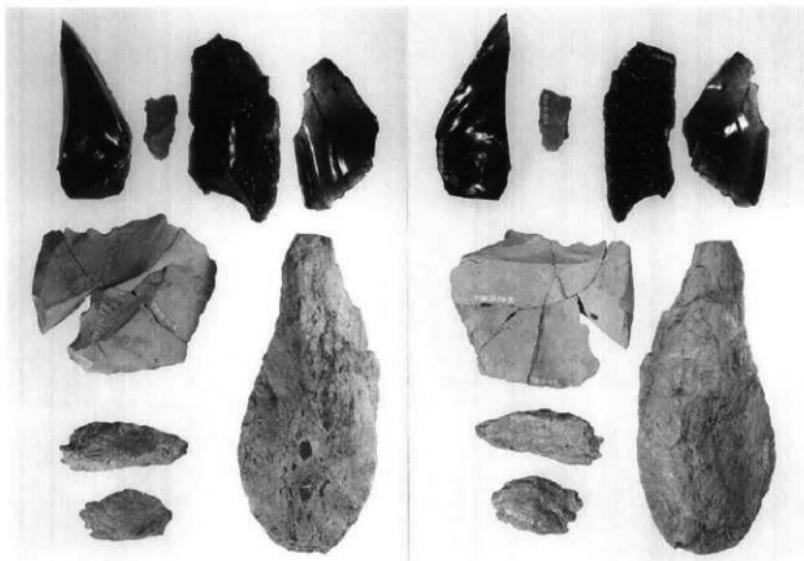


4 縄文草創期土器

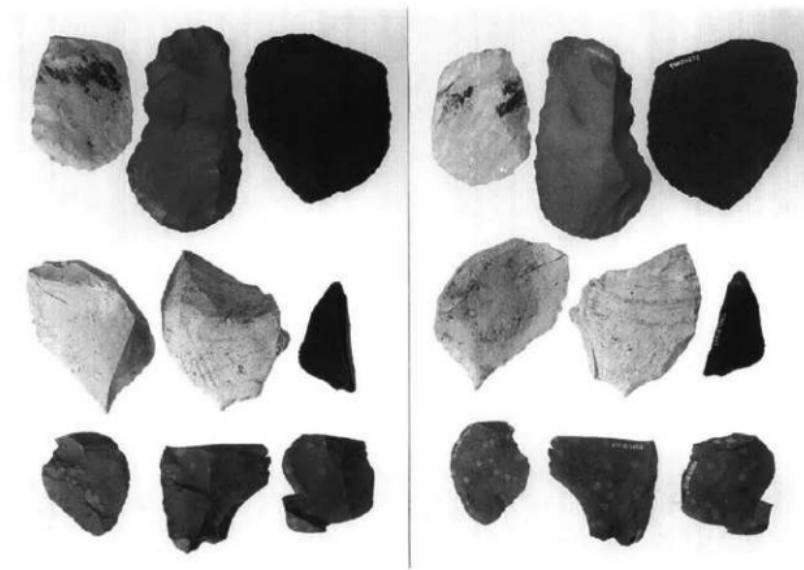


5 石器の集中区（モヤ下部）

写真図版4：上ノ原遺跡



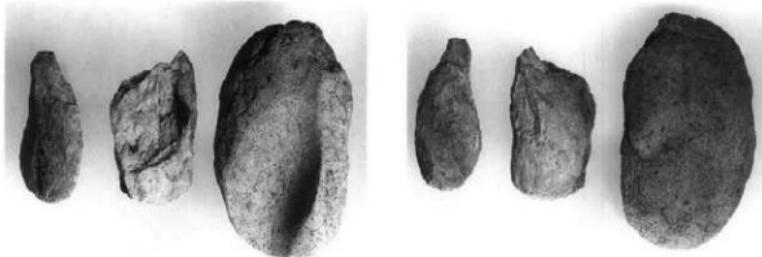
1 旧石器時代の石器



2 旧石器時代末～繩文草創期の石器

0 5cm

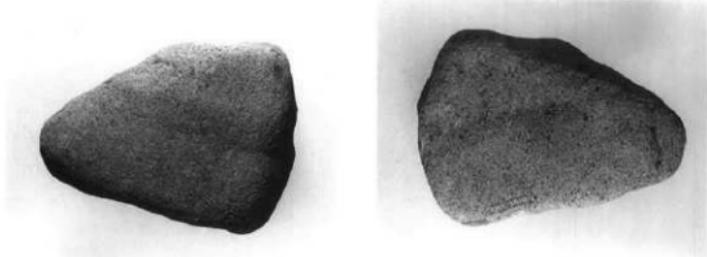
写真図版 5：上ノ原遺跡



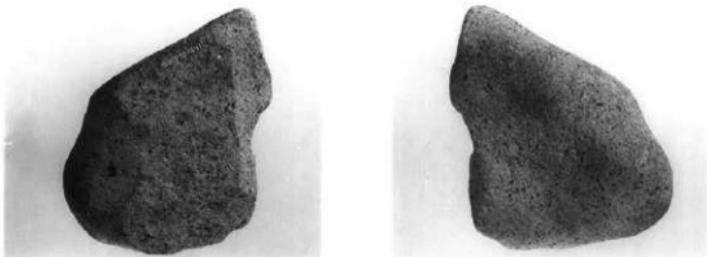
1 石斧未成品・石斧素材・砥石



2 砥石



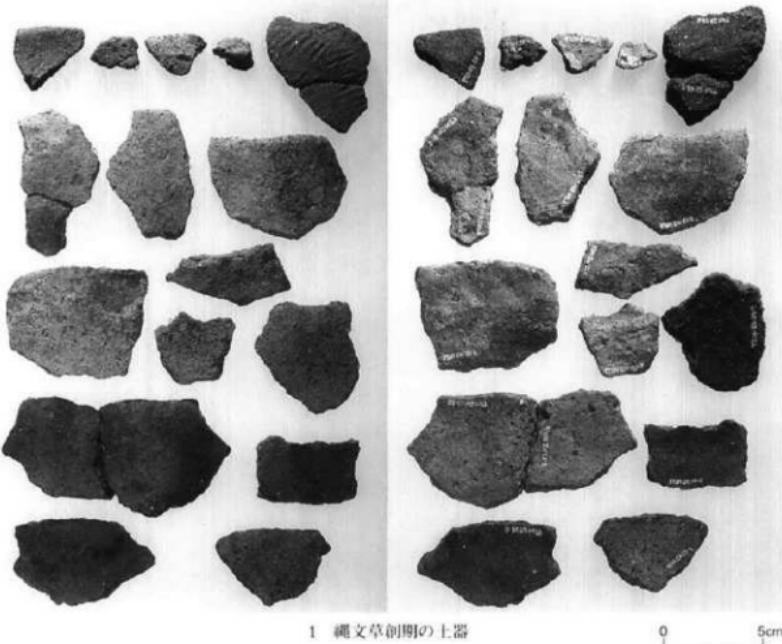
3 砥石



4 砥石

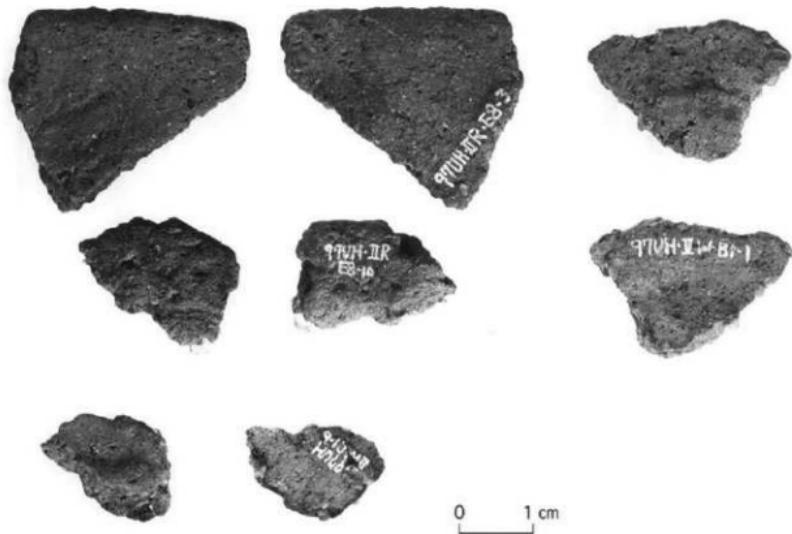
0 5cm

写真図版6：上ノ原遺跡



1 繩文草創期の土器

0 5cm



2 隆線文土器（左）・爪形文土器（右・下）

0 1 cm

写真図版7：宮の腰遺跡・針ノ木遺跡



1 宮の腰遺跡の試掘調査



2 宮の腰遺跡の試掘調査



3 宮の腰遺跡の試掘調査



4 宮の腰遺跡の遺物の出土状況



5 宮の腰遺跡の地層



6 針ノ木遺跡の試掘調査

写真図版 8：吹野原 A 遺跡



1 吹野原 A 遺跡試掘調査の様子①



2 吹野原 A 遺跡試掘調査の様子②



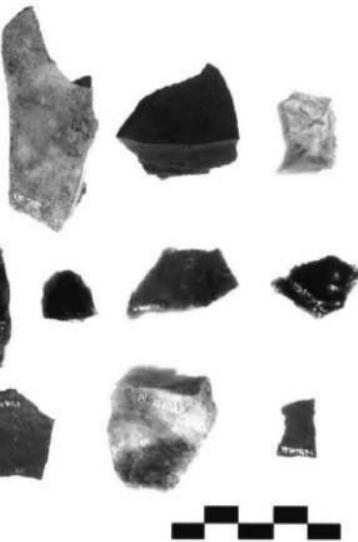
3 吹野原 A 遺跡の石器の出土状況



4 吹野原 A 遺跡の陥し穴の検出状況



5 吹野原 A 遺跡出土の主な石器（表）



6 吹野原 A 遺跡出土の主な石器（裏）

報告書抄録

書名	上ノ原遺跡（7次）ほか発掘調査報告書							
副書名	－旧石器時代と縄文時代草創期の遺跡－							
シリーズ名	信濃町の埋蔵文化財							
シリーズ番号								
編著者名	中村 由克・渡辺 哲也							
編集機関	信濃町教育委員会							
所在地	〒389-1313 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL 026-255-5923							
発行年月日	1998年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ° °	東經 ° ° °	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
上ノ原遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字柏原字岡実	205834	65	36度 49分 55秒	138度 12分 02秒	19970902～ 19971201	1,300	町道建設 試掘調査
宮ノ腰遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字大井字南原	205834	152	36度 46分 15秒	138度 12分 45秒	19971127～ 19971205	1,900	宅地開発 試掘調査
針ノ木遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字富滝字針ノ木	205834	98	36度 48分 21秒	138度 13分 19秒	19971127～ 19971128	450	町道建設 試掘調査
吹野原A遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字古間字原	205834	92	36度 47分 34秒	138度 13分 31秒	19971110～ 19971121	45	土取 試掘調査
立が鼻遺跡	長野県上水内郡信濃町 大字野尻字海端	205834	31	36度 49分 44秒	138度 12分 40秒	19970806～ 19970811	32	範囲確認 測量
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上ノ原	散布地	旧石器時代 縄文時代	配石遺構 2基	総出土点数 630点 石器 267点 土器 137点	630点 267点 137点	旧石器時代前半の砥石をともなう配石遺構が出土した。縄文時代草創期の土器が出土した。		
宮ノ腰	散布地	平安時代 中世	なし	総出土点数 177点 平安土器片など	177点 平安土器片など	平安時代の遺物が多いことが判明。		
針ノ木	散布地	縄文時代 平安時代	なし	—	—	なし		
吹野原	散布地	旧石器時代 縄文時代	陥し穴 2基	総出土点数 14点	14点	縄文時代の陥し穴、旧石器時代の石器群の分布がひろがることを確認した。		
立が鼻	散布地	旧石器時代	なし	—	—	測量の基準杭の国家座標測量を行った。		

SUMMARY

The Uenohara site is located at Uenohara Kashiwabara, Shinano-machi, in the northern end of Nagano prefecture, Central Japan. It is situated in lat. 36°49'55"N., long. 138°12'02"E., and is 705 meters above sea level. The excavation was carried out from September 2 to December 1 in 1997, by the Shinano Town Board of Education, prior to the construction of the local road. The total excavation area is about 1,300 square meters.

The remains that totaled 527 were excavated from three cultural layers of the Upper Nojiri Loam Formation (Pleistocene). There were 267 pieces of Palaeolithic stone tools, 137 pieces of Jomon pottery and so forth.

Most of the artifacts from the Uenohara site belong to the Palaeolithic Period, the Incipient Jomon Period. The results of the excavation are as follows.

1. Late Palaeolithic Period (about 30,000 ~ 25,000 y.B.P.)

Whetstones, raw materials (serpentinite) of partially ground chipped stone axes were yielded from the Black band of the Upper Nojiri Loam Member I. These belong to the early half of the Late Palaeolithic Period.

2. Incipient Jomon Period (about 12,000 y.B.P.)

Linear-applqué pottery (Ryuusen-mon pottery) and nail-impression pottery (Tsumegata-mon pottery) found, belonging to the Incipient Jomon Period.

3. The other sites

The other locality of the Fukinohara A site and the Miyanokoshi site were excavated in 1997.

(NAKAMURA Yoshikatsu)

表紙写真

砥石と蛇紋岩の石斧未成品と素材の

セット

左端の石器の大きさ18.0cm

後期旧石器時代の前半

信濃町の埋蔵文化財

上ノ原遺跡(7次)ほか発掘調査報告書

-旧石器時代と縄文時代草創期の遺跡-

編集発行 信濃町教育委員会
長野県上水内郡信濃町柏原428-2

発行日 1998年3月20日

印刷 信毎書籍印刷株式会社

【この報告書についての連絡先】

野尻湖ナウマンゾウ博物館

〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻287-5

TEL 026-258-2090

FAX 026-258-3551

Archaeological Reports of Shinano-machi

Uenohara Site (7th Excavation)

Excavation of a Late Palaeolithic and Incipient Jomon Site

1998

Shinano-machi Board of Education,
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.